

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
現代生活学部	人間栄養学科	夜・通信	9		67	76	13	
子ども学部	子ども学科	夜・通信	23		69	92	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	30		62	92	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/campuslife/syllabus.html にて、実務経験の有無欄で確認する。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

大学要覧(大学事務局に配置)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元県副知事	R5.10.1 ～ R8.9.30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元公立高校校長	R5.4.28 ～ R8.4.27	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人 中国学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。 シラバスの主な項目は、「授業概要」「到達目標」「授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」「実務経験の有無(経験年数含む)」「課題等に対するフィードバック方法」等から構成される。 シラバス作成にあたっては、「シラバス作成マニュアル」は毎年内容を見直し、変更箇所についてもピックアップするとともに、記述例を表記している。記載内容や記載方法を詳細に示すことができおり、作成マニュアルは非常勤講師を含め全教員へ教務システム「UNIPA」を通じて送信している。令和7年度に向けたシラバス提出は、「UNIPA」の機能を活用し、教員は作成マニュアルに沿って原稿を提出している。原稿はシラバス整備のガイドラインに基づき、教科担当者と教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼している。学生に分かりやすいシラバスを作成するとともに、学生は「UNIPA」の時間割機能から容易に、当該科目のシラバスを閲覧できる。令和6年度からはシラバスとルーブリックが同じ画面上で閲覧できるように、教務システムを改善した。学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。 シラバスの作成・公表時期については、例年次の日程で実施している。 1 シラバス入稿期間：前年12月初旬～翌2月末 2 シラバス点検期間：3月初旬～3月中旬 3 シラバス修正期間：3月中旬～3月下旬 シラバス公開：4月1日	
授業計画書の公表方法	本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/campuslife/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 中国学園大学アセスメント・ポリシーにおいて、授業科目レベルの評価はシラバスに記載してある評価方法で行い、授業担当教員が科目(教養、専門、資格関連)の特性と、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)に応じ、適切な評価方法(筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業出席度等)を勘案し、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的な割合をすべて「%」で明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定または履修の認定を行っている。 また、各教員がそれぞれに実施している指導の評価等については、常に学部内の会議等で相互に意見交換をし、きめ細かく効果的な指導と適切な評価について検討することで、学修成果が達成可能、かつ一定期間内で獲得可能なものになっている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、A～D及びFの5段階とし、D以上を認定としている。成績と評価基準は下表のとおりである。また、教育の質を保証するために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。この制度の導入で、学生は自分の成績を数値で客観的に把握し、次の学期の履修計画に役立てるなどの活用が可能である。

成績と評価基準

成 績	評 価
100－90 点	A
89－80 点	B
79－70 点	C
69－60 点	D
59－ 0 点	F (不合格)

K：欠席 N：受験資格なし

GPA の数値の算出方法については、下記の方法により算出しており、この算出方法は学生便覧に記載し学生に周知している。

<GPA 算出方法>

$4.0 \times A \text{ 評価の単位数} + 3.0 \times B \text{ 評価の単位数} + 2.0 \times C \text{ 評価の単位数} + 1.0 \times D \text{ 評価の単位数}$

GPA = $\frac{\text{総履修登録単位数 (F 評価、K 評価、N 評価の単位数を含む)}}{\text{総履修登録単位数 (F 評価、K 評価、N 評価の単位数を含む)}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページにおいて公表
https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、各学部で点検し、変更する場合は教務委員会へ学部案を提出し審議、承認を経て、幹部会、教授会で審議・決定することとしている。

学内においては、入学式直後に各学部で実施する新入生オリエンテーションで、保護者同席のもとでディプロマポリシーを示して、その内容を説明している。さらに、学生にはその後のオリエンテーション期間中に十分な説明を行っている。

卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び修得単位数を踏まえて行っている。

各学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、下記のとおりである。

【現代生活学部人間栄養学科】

人の栄養に関する必要な幅広い知識と技術を身につけ、人間性豊かな人格を兼ね備えけるとともに、人々の健康の保持・増進に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（栄養学）を授与します。

<知識・理解>

栄養に関する専門的知識を有し、技量等を統合して健康の維持増進や疾病予防・治療に応用できる。

<思考・問題解決能力>

全人的な観点から対象者を理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考および判断ができ、ライフステージの特性に応じた健康の維持増進、疾病予防・治療に貢献できる。

<技能>

対象者の栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる。

<態度>

職業人としての倫理を身につけ、人権、人格を尊重し、行動することができる。また、豊かな人間性と社会性を持ち合わせ、信頼される管理栄養士として社会に貢献する志と自己研鑽する意識を持つことができる。

【子ども学部子ども学科】

教学の理念のもと、「知識・情操・意思」をバランスよく備え、豊かな人間性と専門的能力を身につけた保育者・教育者を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（子ども学）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」から成ります。

<知識・理解>

保育や教育等に関する幅広い教養と専門的知識を修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。

<思考・問題解決能力>

子どもに関わる様々な場面から、主体的に問題を見だし、問題解決の方法を探求し、計画を立てて実践し、振り返って次の問題の発見・解決につなげていくことができる。

<技能>

保育や教育等に関する専門的技能を修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。

<態度>

子どもに関わる様々な場面において、子どもの最善の利益を実現するために、主体性を持って多様な人々と協働して問題解決を図ろうとする。

【国際教養学部国際教養学科】

「自律創世」の教学の理念のもと、社会が直面する諸問題の解決に必要とされる幅広い知識・分析スキルおよびコミュニケーション力を身につけて、責任ある社会人として地域に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（国際教養）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」からなります。

＜知識・理解＞

社会の構造的変化の全体的構図を描くために必要とされる幅広い知識を有し、自分の意見(仮説)を形成し、また、討議を通じて意見を調整(検証)する力を備えている。

＜思考・問題解決能力＞

身近な地域の問題からグローバルな課題まで考察できる思考力と問題解決に向けた調整力を身につけている。

＜技能＞

コミュニケーション力と、様々な定性的および定量的データを分析する力を身につけて、意味のある命題を導くことができる。

＜態度＞

社会人としての倫理観を身につけ、マネジメントの考え方に立って、他者と協力して地域社会に貢献する態度を有する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
収支計算書又は損益計算書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
財産目録	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
事業報告書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
監事による監査報告(書)	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代生活学部人間栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/76d556af83bbda417d1b49cfa48f114b.pdf ） （概要） 現代生活学部は、現代および将来の生活に必要な知識と技術を創造し、これを社会へ提供しながら、自主性に富む人格を育成することを目的とする。 人間栄養学科は、人の栄養に関わる新しい知識と技能を創造し、人の健全な食生活について企画・管理・指導できる管理栄養士を養成することを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3 ） （概要） 人の栄養に関する必要な幅広い知識と技術を身につけ、人間性豊かな人格を兼ね備えるとともに、人々の健康の保持・増進に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（栄養学）を授与します。 <知識・理解> 栄養に関する専門的知識を有し、技量等を統合して健康の維持増進や疾病予防・治療に応用できる。 <思考・問題解決能力> 全人的な観点から対象者を理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考および判断ができ、ライフステージの特性に応じた健康の維持増進、疾病予防・治療に貢献できる。 <技能> 対象者の栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる。 <態度> 職業人としての倫理を身につけ、人権、人格を尊重し、行動することができる。また、豊かな人間性と社会性を持ち合わせ、信頼される管理栄養士として社会に貢献する志と自己研鑽する意識を持つことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表） https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2 ） （概要） ○教養教育科目に加え、専門教育科目を「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門関連分野」の 3 区分に分けて設置しています。教養教育科目では、学びの基礎となる知識や学修方法を修得します。専門教育科目では、栄養士免許と管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目を修得し、健康に関して科学的根拠に基づいた提案ができる管理栄養士を育成します。 ○講義と実習科目を段階的に組み合わせ、管理栄養士として必要な知識と技能を体系的に修得します。また、臨地実習では、病院・福祉施設、保健所・保健センター、学校・給食センターなどの実習先を配置することにより、多岐にわたる管理栄養士へのニーズに応えられる適応力と実践的な視点・態度を身につけます。 ○4 年間の専門科目学修の総まとめを行い、管理栄養士としての基盤を完成させます。また、知識と実践力の集大成として卒業研究を行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1 ）

(概要) ○栄養学の専門家である管理栄養士を目指す人 ○食べ物や食文化、健康について興味や関心がある人 ○食を通じて人や地域とふれあい、人生を豊かにしたいと希望している人 ○栄養学を広く学びそれにより自己実現を志向している人

学部等名 子ども学部子ども学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/76d556af83bbda417d1b49cfa48f114b.pdf）
(概要) 子ども学部は、子ども学の研究を通して現代社会における子ども支援に多面的に貢献できる人材の育成を目的とする。 子ども学科は、地域との連携の中で深い子ども理解を基礎として子どもの文化・社会の向上と子どもの保育・教育の発展に資する実践的能力を涵養することを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）
(概要) 教学の理念のもと、「知識・情操・意思」をバランスよく備え、豊かな人間性と専門的能力を身につけた保育者・教育者を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（子ども学）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」から成ります。 <知識・理解> 保育や教育等に関する幅広い教養と専門的知識を修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。 <思考・問題解決能力> 子どもに関わる様々な場面から、主体的に問題を見だし、問題解決の方法を探求し、計画を立てて実践し、振り返って次の問題の発見・解決につなげていくことができる。 <技能> 保育や教育等に関する専門的スキルを修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。 <態度> 子どもに関わる様々な場面において、子どもの最善の利益を実現するために、主体性を持って多様な人々と協働して問題解決を図ろうとする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2）

(概要) ○教学の理念のもと、ディプロマポリシーに掲げた学士力を養成するために、教養教育科目及び専門教育科目により教育課程を編成しています。 ○主に<知識・理解>に係る学修を実施するため、教養教育科目には、「人間と生活」「人間と科学」「生活と情報」「外国語」「体育」「初年次教育」の6教育内容にわたる科目を設置し、幅広い知識と深い教養を身につけます。また、専門教育科目の教育内容「子どもの理解」には、子どもを理解する基盤となる理論的知識を修得できる授業科目を設置しています。 ○主に<思考・問題解決能力>に係る学修を実施するため、専門教育科目の教育内容「子ども学の探求」には、子ども学に関する授業科目を全ての学年で設置し、卒業研究に結実させます。3年次以降の科目は卒業必修科目として実施します。 ○主に<技能><態度>に係る学修を実施するため、専門教育科目の教育内容「学士力の養成」には、全教育課程を通して修得していく学士力の基礎と、専門分野に特化した具体的な学士力を身につけるための授業科目を実施します。また、専門教育科目の教育内容「子どもと教科及び基礎技能」「子どもの教育」「子どもの生活支援」には、演習を中心に保育や教育等に関する実践力を身につけるための授業科目を設置しています。 ○講義、演習、実習形式を適切に組み合わせて授業を実施します。グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等の能動的学修を、より効果的なものとするため少人数教育を実施します。 ○授業科目ごとの学修成果の評価は、シラバスに提示している方法によって厳正に実施します。ディプロマポリシーの到達度は、GPAを活用して評価します。GPAは表彰等における基礎資料とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1）
(概要) ○教学の理念のもと、豊かな人間性の涵養に努め、保育や教育等について専門的に学びたいという意欲のある人 ○保育や教育等に関する教育課程を学修するために必要な、基礎的な知識・技能とともに、思考力、判断力、表現力、協調性および主体的に学ぶ態度を有している人 ○保育や教育等に関する専門的能力を身につけた保育者・教育者となり、社会に貢献したいという願いを持っている人

学部等名 国際教養学部国際教養学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/76d556af83bbda417d1b49cfa48f114b.pdf）
(概要) 国際教養学部は、グローバル社会で求められる知識力、情操力、意思力、情報発信力、行動力から成る統合的資質・能力である「国際教養」を備えた人材の育成を目的とする。 国際教養学科は、高い英語と日本語の統合的コミュニケーション能力に基づいて、地域から世界に発信し、地域および国際舞台で活躍できる企業人・社会人を育成することを目標とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）

(概要) 「自律創世」の教学の理念のもと、社会が直面する諸問題の解決に必要とされる幅広い知識・分析スキルおよびコミュニケーション力を身につけて、責任ある社会人として地域に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（国際教養）を授与します。学士力とは、「知識・理解」、「思考・問題解決能力」、「技能」「態度」からなります。 <知識・理解> 社会の構造的変化の全体的構図を描くために必要とされる幅広い知識を有し、自分の意見(仮説)を形成し、また討議を通じて意見を調整(検証)する力を備えている。 <思考・問題解決能力> 身近な地域の問題からグローバルな課題まで考察できる思考力と問題解決に向けた調整力を身につけている。 <技能> コミュニケーション力と様々な定性的および定量的データを分析する力を身につけて、意味のある命題を導くことができる。 <態度> 社会人としての倫理観を身につけ、マネジメントの考え方に立って、他者と協力して地域社会に貢献する態度を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2）
(概要) ○幅広い知識・教養と豊かな人間性を養うことは、コミュニケーション力の基礎になる。そのため、1・2年次には、人文科学、自然科学、社会科学に関する科目および地域学などを教養教育科目として配置しています。 ○1年次の教養教育科目では、社会的ニーズがますます高まっている実践的英語力と情報スキルを高める必修科目を設けています。 ○専門教育科目のうち、国際教養基幹科目としては、問題提示と、集団討議を通して意見形成を図る少人数ゼミナールを設けています。 ○専門教育課程では、「リージョナル・マネジメント・コース」、「グローバル・マネジメント・コース」、「アグリ&フード・マネジメント・コース」を設けて、それぞれの専門教育科目を配置しています。 ○専門教育科目では、実践的な課題解決に取り組むなかで、マネジメントの理論・技能を修得するゼミ形式の科目を配置しています。 ○専門教育科目においても、幅広い知識を修得できるように、コース横断的履修を可能にしています。 ○4年次には、学部教育の集大成として卒業研究に取り組みます。実践的な課題解決に向けて解決策を見つけて、論理的に説明できる力の修得を目指します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1）
(概要) ○社会を取り巻く技術革新、人口動態、生活様式、地球環境などの諸変化のなかで、地域の企業・組織がどのような方策で発展を図っているかに興味を抱く人 ○国際的コミュニケーション力を身につけて、将来海外で活躍したいと考えている人 ○日本の食糧、農業、農村が抱える課題・問題点に関心のある人 ○マネジメントの実践的知識を身につけて地域社会に貢献したいと考えている人 ※マネジメントとは、組織の目標を設定して、その目標を達成するための課題を見つけ、組織の経営資源を効率的に活用して、解決策を見つけることを指す。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページにおいて公表
https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	学長 1人	—					1人
現代生活学部	副学長 1人	6人	4人	3人	4人	人	18人
子ども学部	—	8人	4人	1人	2人	人	15人
国際教養学部	—	5人	1人	2人	1人	人	9人
データサイエンスセンター		1人	0人	0人	0人	人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		39人					39人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「中国学園大学ファカルティ・ディベロップメント委員会」を中心として、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に推進する体制を整えてある。 <実施内容> ・教員相互の授業参観：年に2回（前・後期各1回）、それぞれ2週間の授業公開期間を設けている。この期間、原則として本学全教員の授業が公開される。教員は空いている時間に自由に他の教員の授業を見学できる。互いに授業を参観し、授業の導入・展開・まとめといった流れに加えて、資料等の使い方等のよい点や改善点を指定用紙に記入し、提出してもらっている。その結果を授業担当者にフィードバックを行うことで授業改善及び指導力向上に繋げたい。 ・FD研修会：本学における直近の課題や、教育の日常的な取り組みの中から取り上げるべきトピックを選び、共通のテーマで全学部教員、事務職員が出席し、全学的な教育改善等について共有する。同じテーマで学部に分かれ意見を出し合い、後に発表するワークショップ形式を取り入れる回もある。令和6年度はFD研修会を3回実施した。 ・教育活動表彰：教育理念の実現に向けて顕著な教育活動の成果を上げたと認められる教職員を表彰することにより、意欲向上並びに教育方法及び教育技術の向上を図り、より優れた教育活動の推進に資することを目的に行う。 ・授業評価アンケート：授業に対する意見を学生から受け取ることで、授業改善の手がかりを見出し、授業改善につなげることで教育の質の向上を目指す。自由記述欄も設け、学生の意見を聴取する。集計結果を受けて、教員は科目ごとにコメントを返している。 ・卒業生アンケート：卒業年次生に対し、教務システムを利用した回答方式で授業、資格等についてのアンケートを実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代生活学部	50 人	32 人	60%	298 人	170 人	60%	8 人	12 人
子ども学部	70 人	46 人	70%	380 人	246 人	60%	10 人	3 人
国際教養学部	50 人	12 人	20%	210 人	45 人	20%	10 人	3 人
合計	170 人	90 人	50%	888 人	461 人	50%	28 人	18 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代生活学部	44 人 (100%)	人 (%)	42 人 (95.5%)	2 人 (4.5%)
子ども学部	71 人 (100%)	3 人 (4.2%)	65 人 (91.5%)	3 人 (4.2%)
国際教養学部	17 人 (100%)	人 (%)	15 人 (88.2%)	2 人 (11.8%)
合計	132 人 (100%)	3 人 (2.3%)	122 人 (92.4%)	7 人 (5.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：本学大学院				
就職先：地方公共団体、公私立保育所・幼稚園・こども園・小学校、医療法人、社会福祉法人、製造、運輸、小売、金融、宿泊・飲食サービス、生活関連サービス、情報通信等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代生活学部	50 人 (100%)	39 人 (78%)	0 人 (%)	11 人 (22%)	人 (%)
子ども学部	79 人 (100%)	70 人 (88.6%)	4 人 (5.1%)	5 人 (6.3%)	人 (%)
国際教養学部	19 人 (100%)	16 人 (84.2%)	1 人 (5.3%)	1 人 (5.3%)	1 人 (5.3%)
合計	148 人 (100%)	125 人 (84.5%)	5 人 (3.4%)	17 人 (11.5%)	1 人 (0.7%)
(備考) ・現代生活学部の退学理由は、進路変更 6 名、体調不良(心疾患含む)3 名、経済面 1 名、就職 1 名 ・子ども学部の留年生の内 2 名は留学後復学、進路再検討 1 名 退学理由は、進路変更 3 名、経済面 1 名、心疾患 1 名 ・国際教養学部のその他 1 名は、留学生の除籍					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。 シラバスの主な項目は、「授業概要」「到達目標」「授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」から構成される。 シラバス作成にあたっては、「シラバス作成マニュアル」は毎年内容を見直し、変更箇所についてもピックアップするとともに、記述例を表記している。記載内容や記載方法を詳細に示すことができおり、作成マニュアルは非常勤講師を含め全教員へ教務システム「UNIPA」を通じて送信している。令和6年度に向けたシラバス提出は、「UNIPA」の機能を活用し、教員は作成マニュアルに沿って原稿を提出している。原稿はシラバス整備のガイドラインに基づき、教科担当者と教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼している。学生に分かりやすいシラバスを作成し、学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

授業科目の学修成果の評価方法については、授業担当教員が科目(教養、専門、資格関連)の特性と、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)に応じ、適切な評価方法(筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業参加度等)を組み合わせ、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的に明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定又は履修の認定を行っている。卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び修得単位数を踏まえて行っている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代生活学部	人間栄養学科	125 単位	有・無	50 単位
子ども学部	子ども学科	125 単位	有・無	49 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有・無	46 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ並びに「令和7年度学生便覧」において公表 280fd39c20ca08ff8eb02f314d3b60be.pdf (中国学園大学学則第32条)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：「令和7年度学生便覧」に記載		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
現代生活 学部	人間栄養 学科 入学時	500,000 円	250,000 円	618,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(300,000 円) 実験実習料(118,000 円)
	人間栄養 学科 2 年次	500,000 円	0 円	548,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(300,000 円) 実験実習料(48,000 円)
	人間栄養 学科 3 年次	500,000 円	0 円	545,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(300,000 円) 実験実習料(45,000 円)
	人間栄養 学科 4 年次	500,000 円	0 円	540,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(300,000 円) 実験実習料(40,000 円)
子ども学 部	子ども学 科	500,000 円	250,000 円	400,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(200,000 円)
国際教養 学部	国際教養 学科	590,000 円	250,000 円	400,000 円	教育充実費(200,000 円) 施設設備費(200,000 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、従前から、経済的に困窮している学生を含め、学業成績が優秀な学生に対して授業料相当額又は、授業料相当額の半額を支給する奨学金制度を実施している。 入学生では、成績優秀者に加え、地方からの進学(沖縄県等の遠隔地)、卒業生の子、兄弟姉妹が本学に在籍している学生を対象としたもの、高等学校においてスポーツで優秀な成績を収めた学生を対象としたもの等、奨学制度を導入して手厚い支援を実施している。 障がいのある学生への支援については、学生本人の意志決定を重視し、障がい学生修学支援委員会で支援内容を決定して実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、一人ひとりの学生と向き合い、それぞれの学生が希望する進路につけるよう、各学部・学科及び就職支援センターが連携して、きめ細かいバックアップ体制で支援を行っている。 就職支援センターでは、進路選択に関する面談、求人情報の提供、インターンシップ参加への助言や就職ガイダンス、学内相談会の開催などを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健室では、学生が心身ともに健康な学生生活を送れるように健康診断の実施及び事後措置、健康相談と応急処置、感染症の予防等を実施している。 学生相談室では、専門カウンセラーが学生生活の中で起こる問題について面談に応じている。また、学生が健康的で豊かな学生生活を送れるように、健康に関する内容等の講演会を学生支援セミナーとして実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F133310109643
学校名 (〇〇大学 等)	中国学園大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人中国学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		73人（－）人	71人（－）人	74人（－）人
内 訳	第Ⅰ区分	39人	37人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	23人	21人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				74人（－）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	-	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。